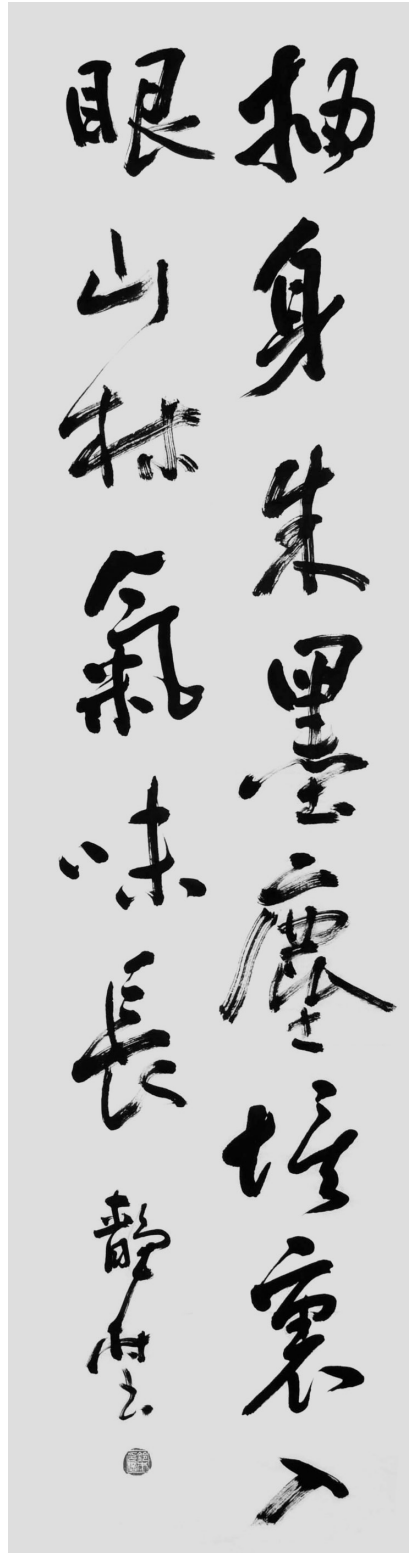


A

鈴木静村書

抽身朱墨塵埃裏 入眼山林氣味長 (楊誠齋)
 身を抽く朱墨塵埃の裏、眼に入る山林気味長し。



B

概観

お詫び―前号漢字条幅の課題作例中、「目」を「月」に誤書。なお釈文中にも誤植という失態にて混乱を及ぼし、唯々深謝の日々。
 さて今月作、両作共小ぶり、特に意識したポイントは一字内の脈絡と活線。潤線・渴線なりにそれぞれ「活き」の表出。せめて一字内での脈々とした一貫性の表出。初歩段階者にはまず、必須要点。



主な文字について

抽 AB共手偏を強めて。身 一画目に相違、反り身の姿勢。墨 頭部大きく、「土」点は打たなくても可。塵 「比」に相違。埃 AB行草で相違、A墨継ぎ。裏 省略書体多い、字典参照。B墨継ぎ。入 小さくも強く。山林 AB共連綿。渴筆線強く。氣 墨継ぎ、「米」書き方多い。味 A切れ切れでも意連を、B「長」へ連綿。

訳：身をぬき出して世の外に出すには、詩の推敲添削などがよいが、眼に映ずる山林の景は情趣が深い。

予告 (八月二十二日締切)

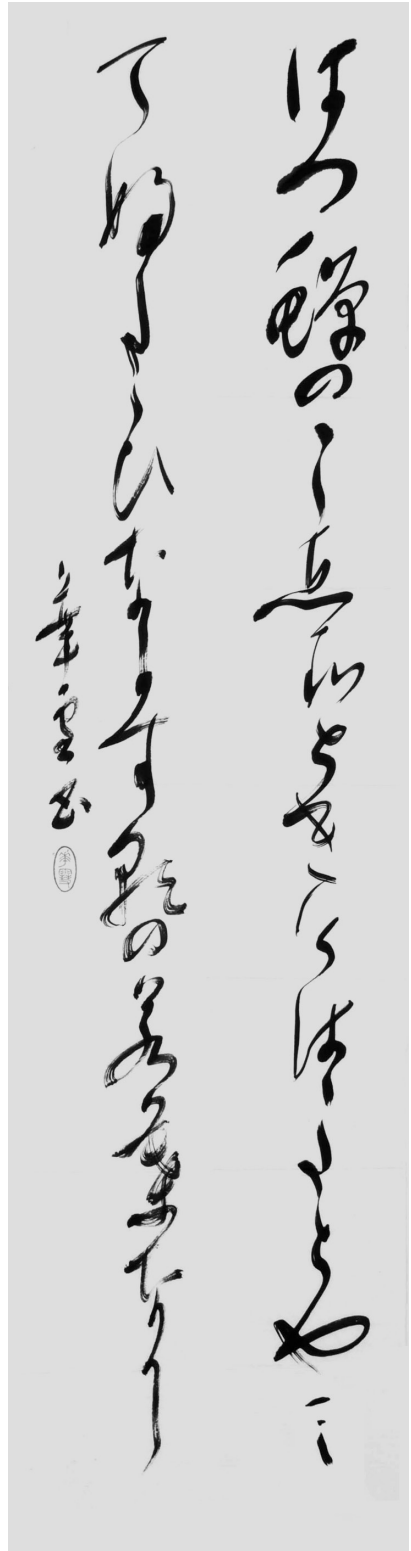
嵐光入壁圖書潤 草色侵帷枕席開 (良琦)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

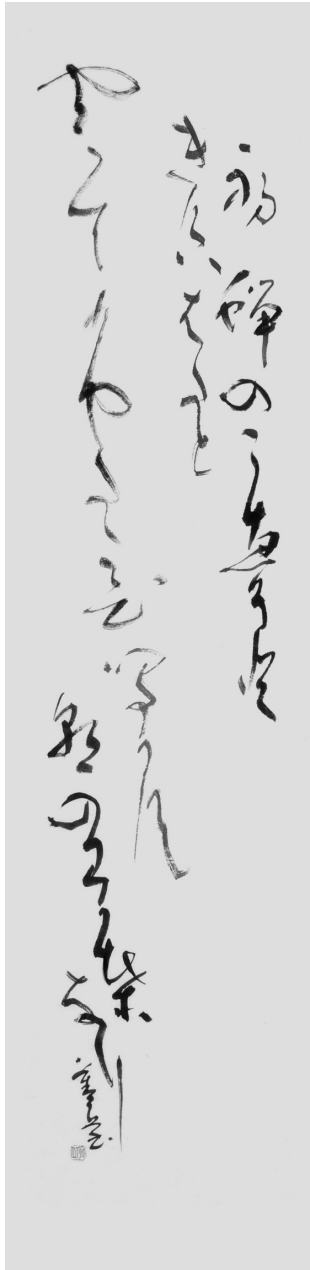
はつ蟬の声ぞと聞けばはたと止みて再び鳴かず朝の若葉なり(土岐善麿)
はつ蟬のこ恵所とき介は、多とや三て婦多、ひな可す朝の若葉なり



B

北島菁丘先生書

初蟬のこゑ曾登き介八者多とや三て布多、飛鳴可須朝の王可葉奈り



学 び 方

今回は基本と違った構成を試みました。一・二・三行の右上の集団に対し、三行目は場面の变化を狙い、渴筆で山場を表現して長く書きながらも縦線を用い、行を流動させ、右下に余白を出す様にしました。結句は三字目あたりから圧をかけて強く締めます。
条幅形式にする時、古典的な机上芸術の表現では物足りない印象を避ける為に、書線の抑揚、墨の潤濁、疎密や行の流れ等の表情が離れても見える様に变化をつける必要があります。小字とは違った場面に耐え得る強さや線質による表現には様々な可能性がありますので、定着されない自由な表現を楽しみむ事ができると思われます。

土岐善麿は目黒不動の近隣に居を構え、偶然にも私の家からも数分の距離にありました。私が書始める前、前田夕暮のご子息前田透師に「詩歌」の結社で和歌を学び、毎年区の短歌大会に選者としてお迎えしていた頃、善麿師は目黒区の名誉区民になられ、花束を贈呈させて頂いたのが当時小学生だった私の娘だったのが懐かしく思い出されます。

予告

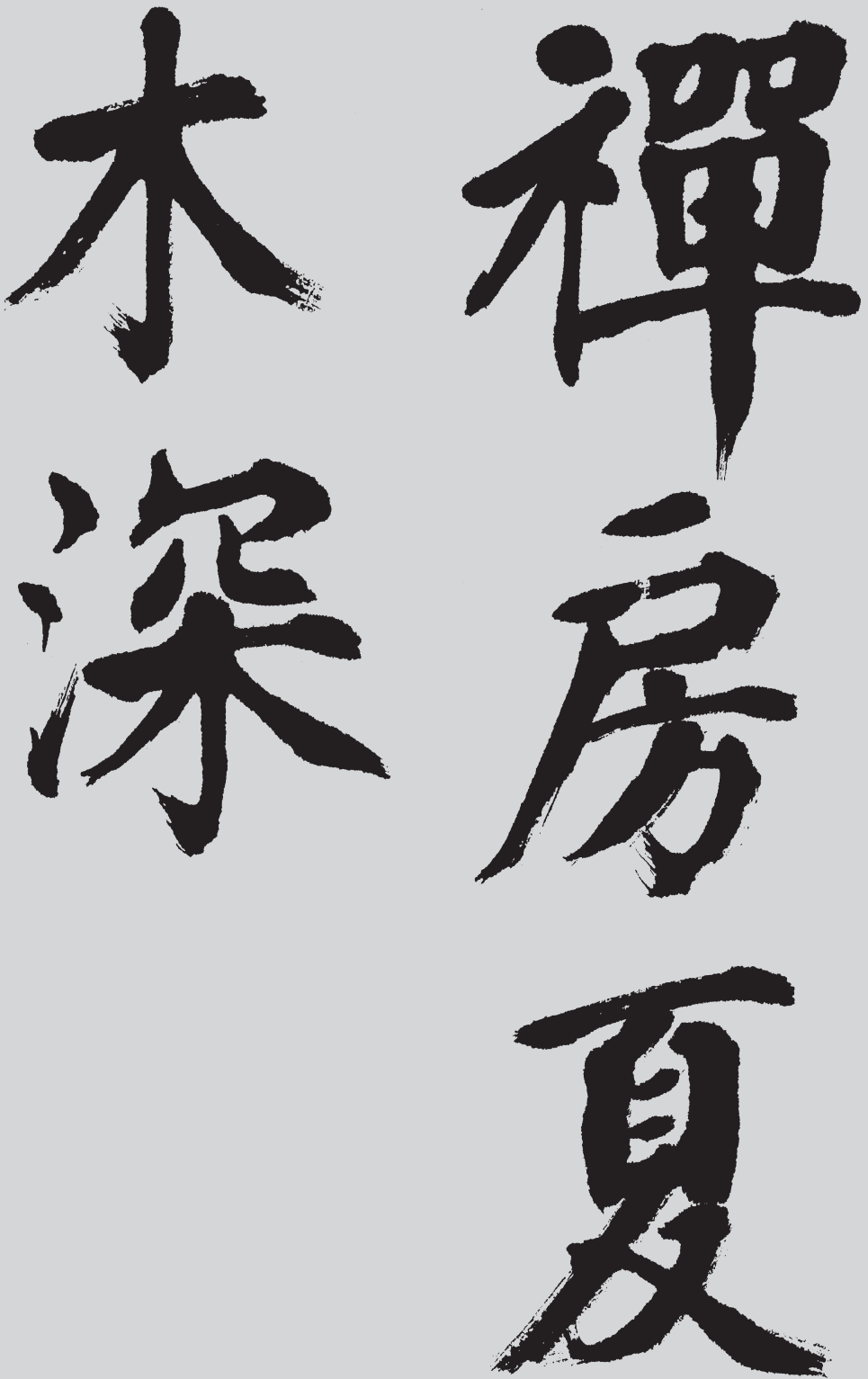
(八月二十二日締切)

松かげの岩間をくぐる水の音に涼しく通ふ日暮らしのこゑ(式子内親王集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

禪房夏木深し(裴迪)

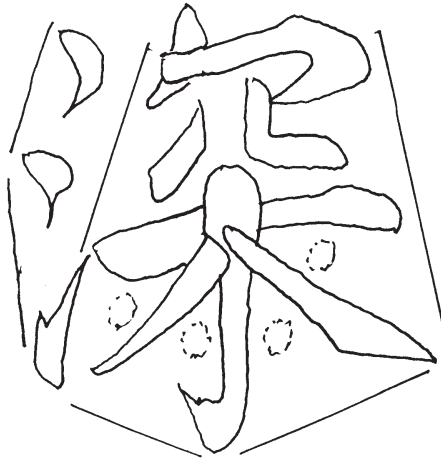
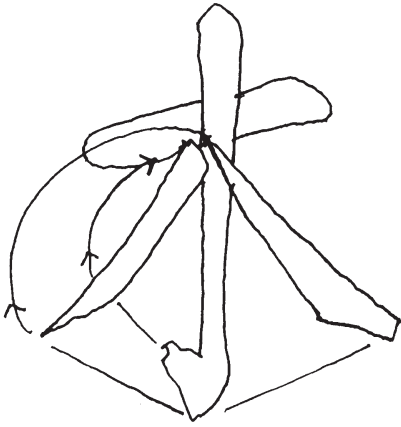


訳：禪寺に夏木立ちが樹蔭を深くしている。

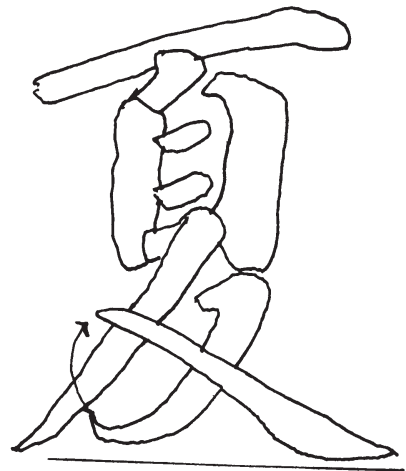
▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

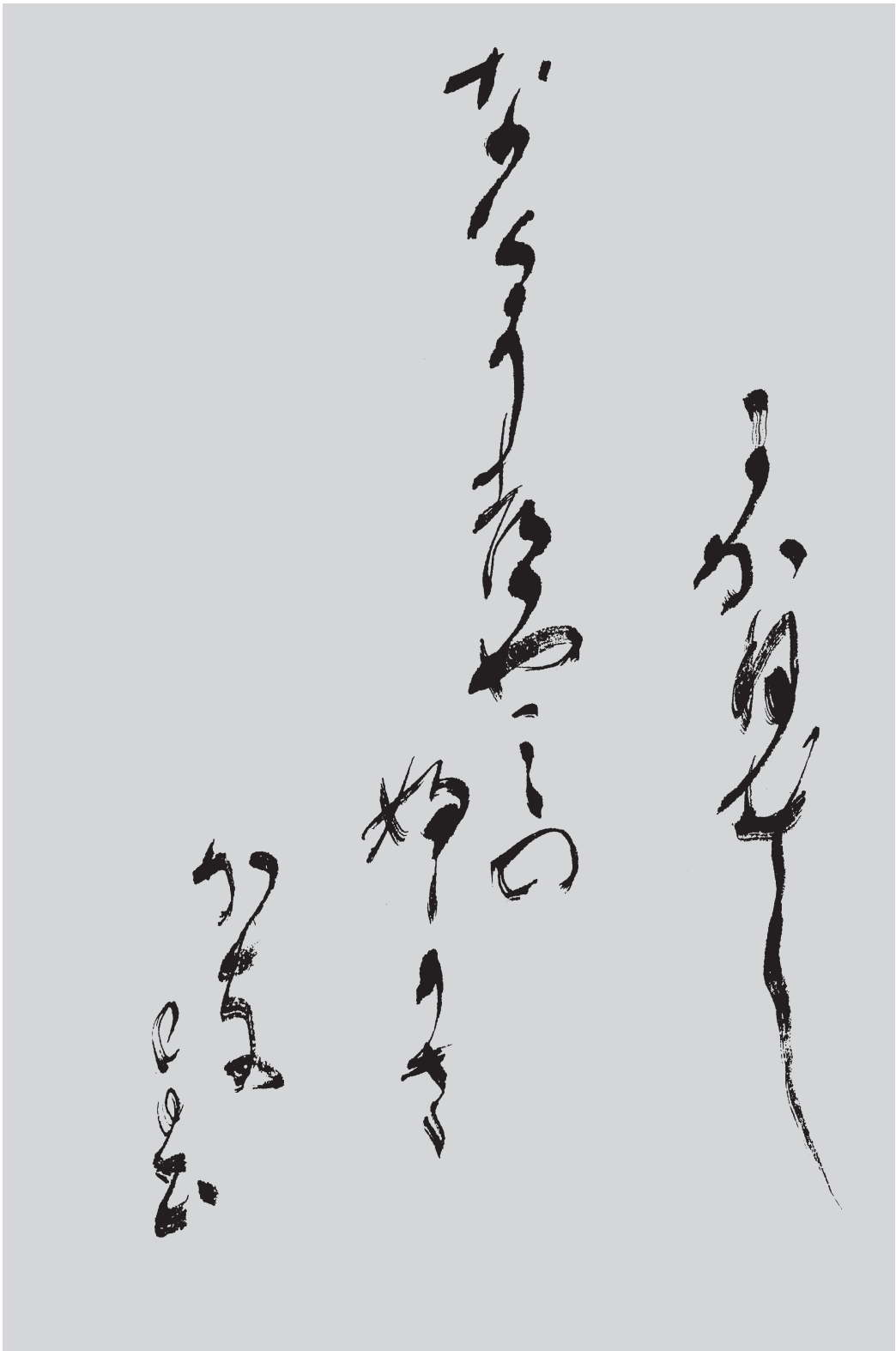


「夏、木、深」の末画(右折)は各字の主画の「ん」の形。
 「禪」の「口」は「ム」も可。古典では半々位。
 「深」の旁を大きくした形は、古典には断然多い。



平岡華雪先生書

こがねむしなげうつ闇の深さかな(虚子)



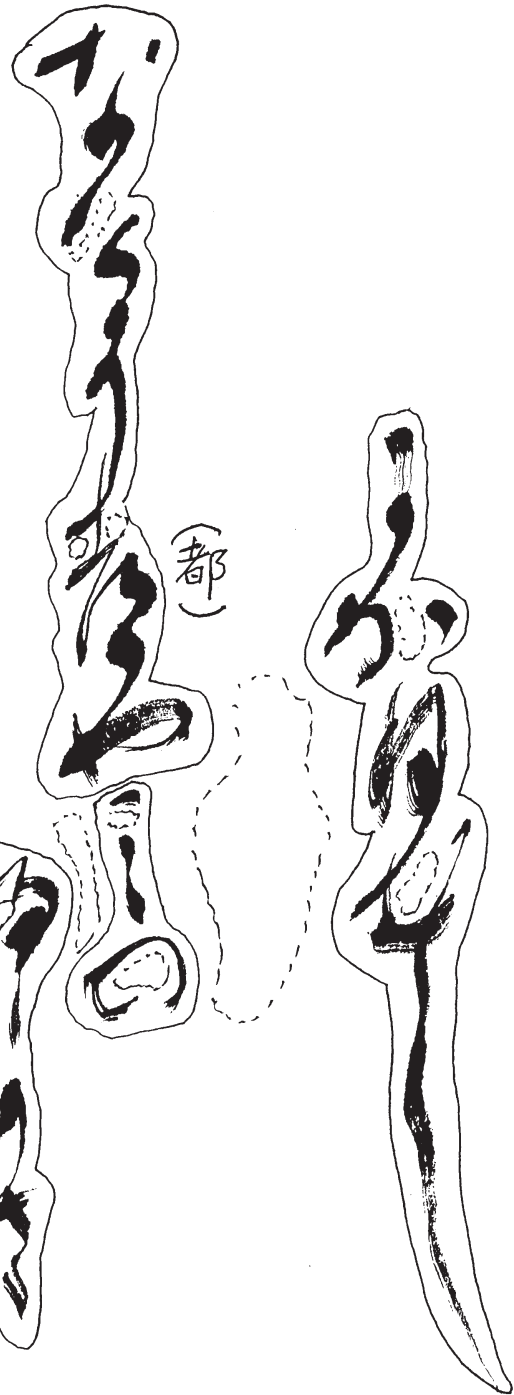
▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① かな部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

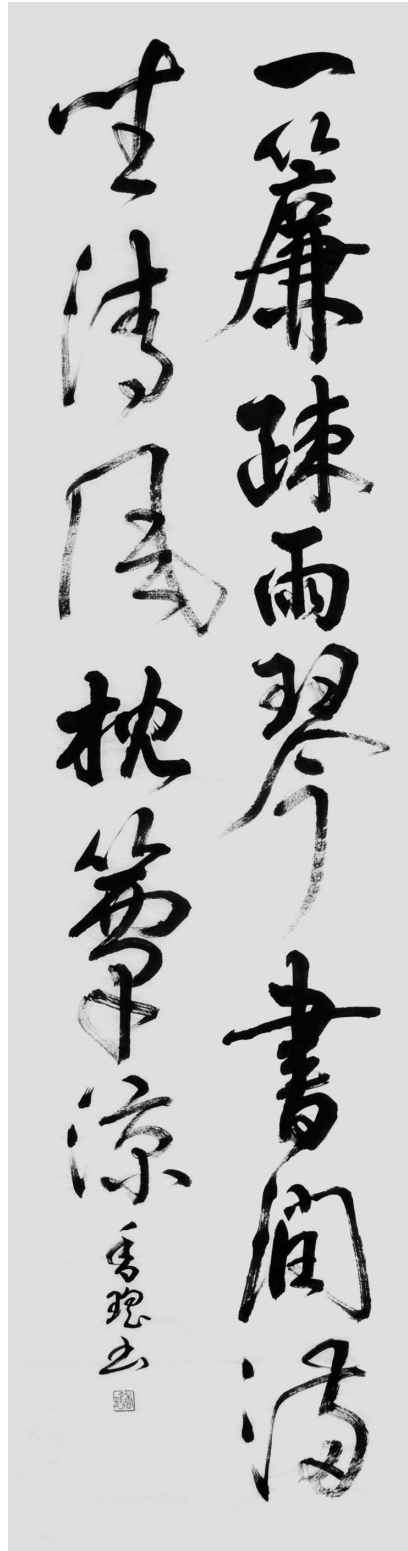
かな文字のみ「の」表現 —

全部の「な」という珍しい仮。変体の「な」の使用がアクセントとなって流れに効果性。一行目「む」の遠く離れた点か「し」への連絡は善宮先生の非常に便利な手法。二行目の主詞部分「う都や」と後詞的に「よし先生の味」。下五を印り離して落款を添えた極めは自然体。



内藤香瑶先生書

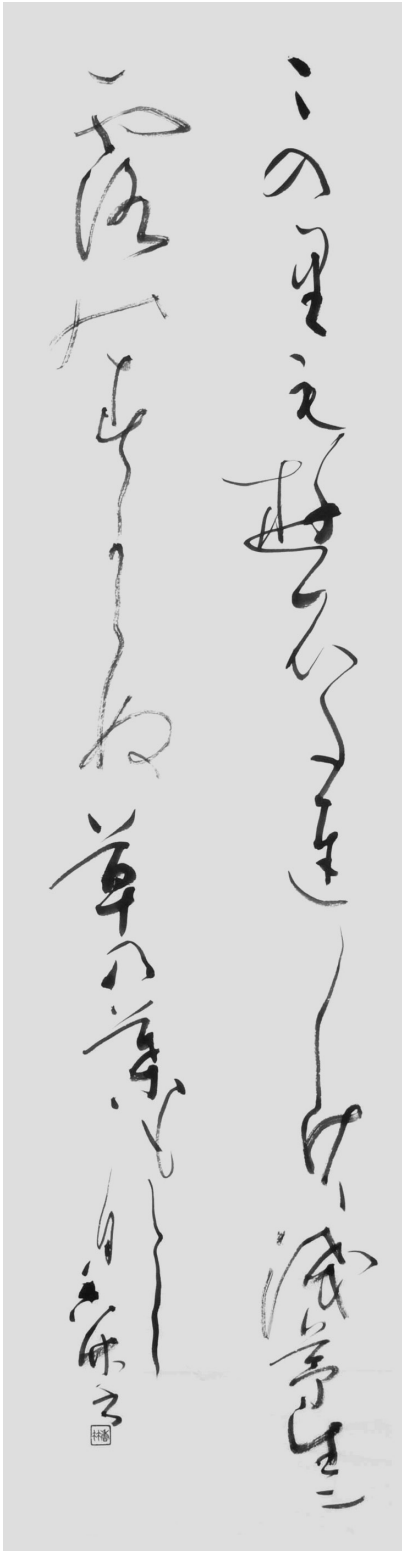
一簾疎雨琴書潤 滿坐清風枕簟涼（陸游）
 一簾の疎雨琴書潤い、滿座の清風枕簟涼し。



訳：すだれ一面にそそぐばらばら雨で琴も書もしめり、ざしきに吹き満つ清風は竹席の上の午睡も涼しい。

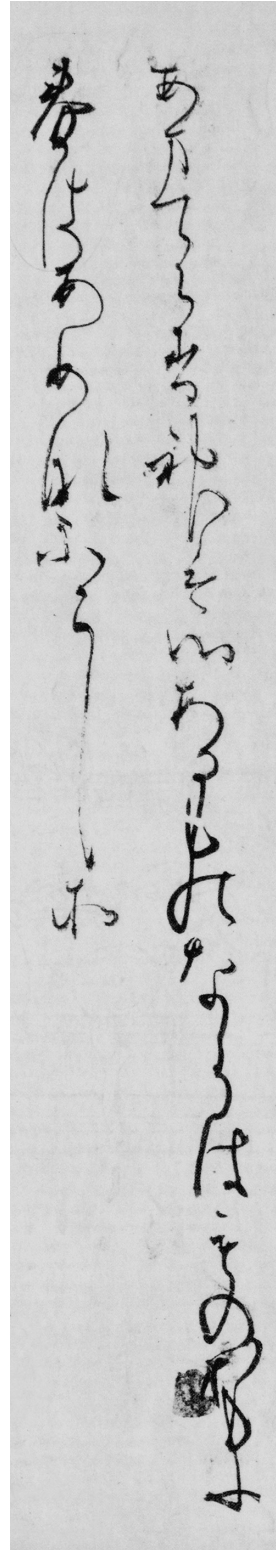
青柳香竹先生書

この里も夕立しけり浅茅生に露のすがらぬ草の葉もなし（金葉和歌集 源俊頼）
 この里毛遊不多遅しけり浅茅生二露能春可らぬ草の葉も那し

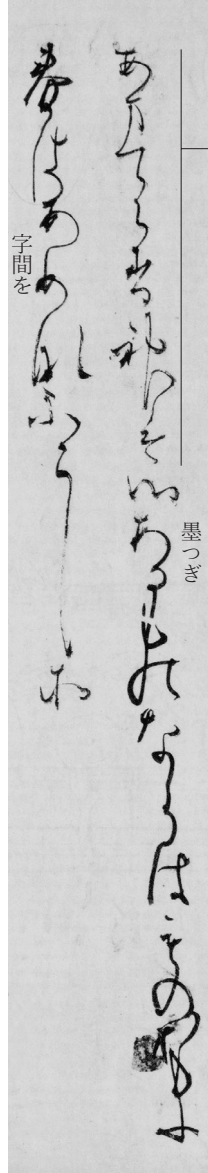


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

石原春香先生担当 和泉式部続集切 伝 藤原行成（日本書学大系・法書篇） ※条幅臨書部は出品料無料です。



逆筆で



墨つき

字間を

あまてらす^{かみ}神も^{こころ}心あるもの
ならばものおもふ^{はる}春はあめな
ふらしそ
あ万てら春神毛心あるも能な
らは毛の於もふ春はあめ那ふ
らし所

△学び方▽

この作品には細い太いの極端な変化はありません。連綿も基本的なものが多い。「ならば」は中心移動。一行目の「あ万てら春神毛」は小粒で字間をつめてあり二行目の「春はあめ那」はどうでしょう。字粒は大きく動きも大きいのでふところの広い明るさがありバランスがとれています。書き始めは詞書きを受けてなので墨量は少なく「あるも能」で墨つきし最後まで。集団で書いてみる練習を。

△連綿▽

・筆圧変化連綿法Ⅱ文字の集団の中に線の太細をつけバランス・変化をもたせる。



・傾斜連綿法Ⅱ上下の文字の傾斜の連綿線を実線と同化させる法。



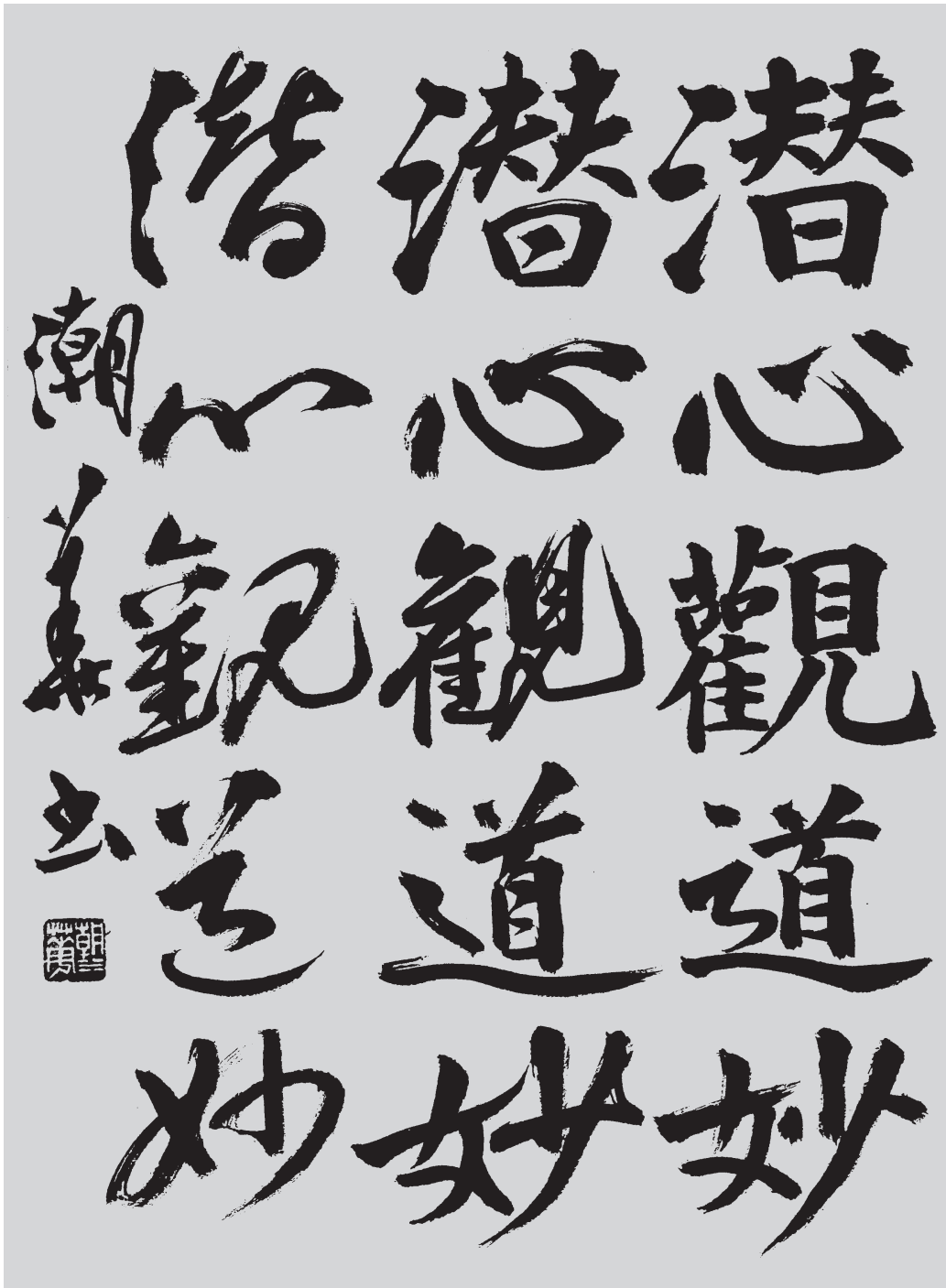
（連綿法は今回で終わり）

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

楷、行、草、三 体 参 考

水 貝 潮 華 先 生 書

潜ひそ心こころ觀み道みち妙たぎ（倪瓚）
心こころをを潜ひそめめ道みち妙たぎをを觀みる。

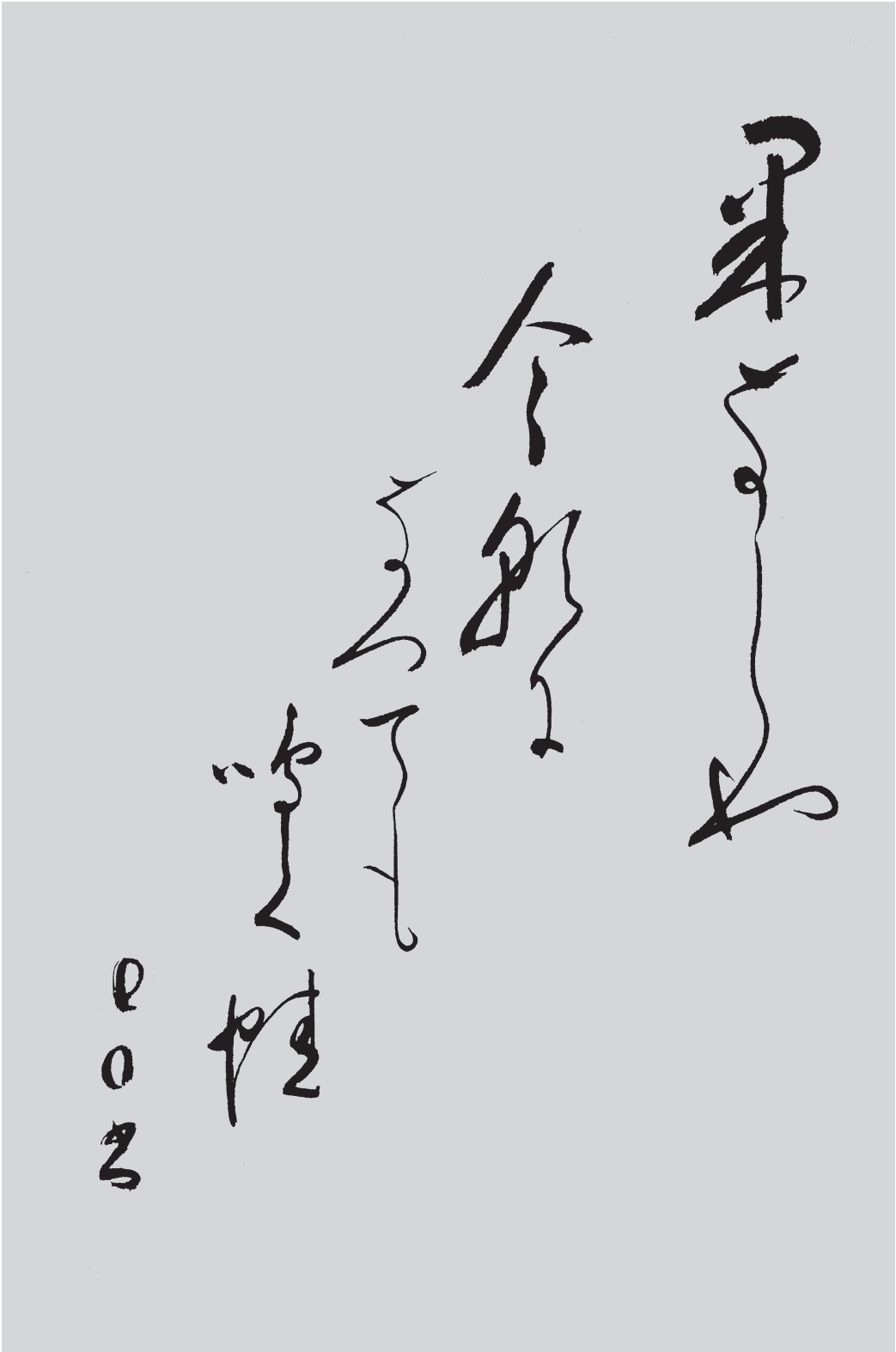


訳…心をひそめ考えこんで初めて道の玄妙深遠なることが知られる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

高塚竹堂先生書

果なしや今朝に成ても鳴く蛙(晝台)



◆ 随意部参考として出品してください。

北 沢 博 舟 先 生 書

琴韻朝醒酒 碁聲午破眠（尹耕）
琴韻朝に酒を醒し、碁聲午に眠を破る。

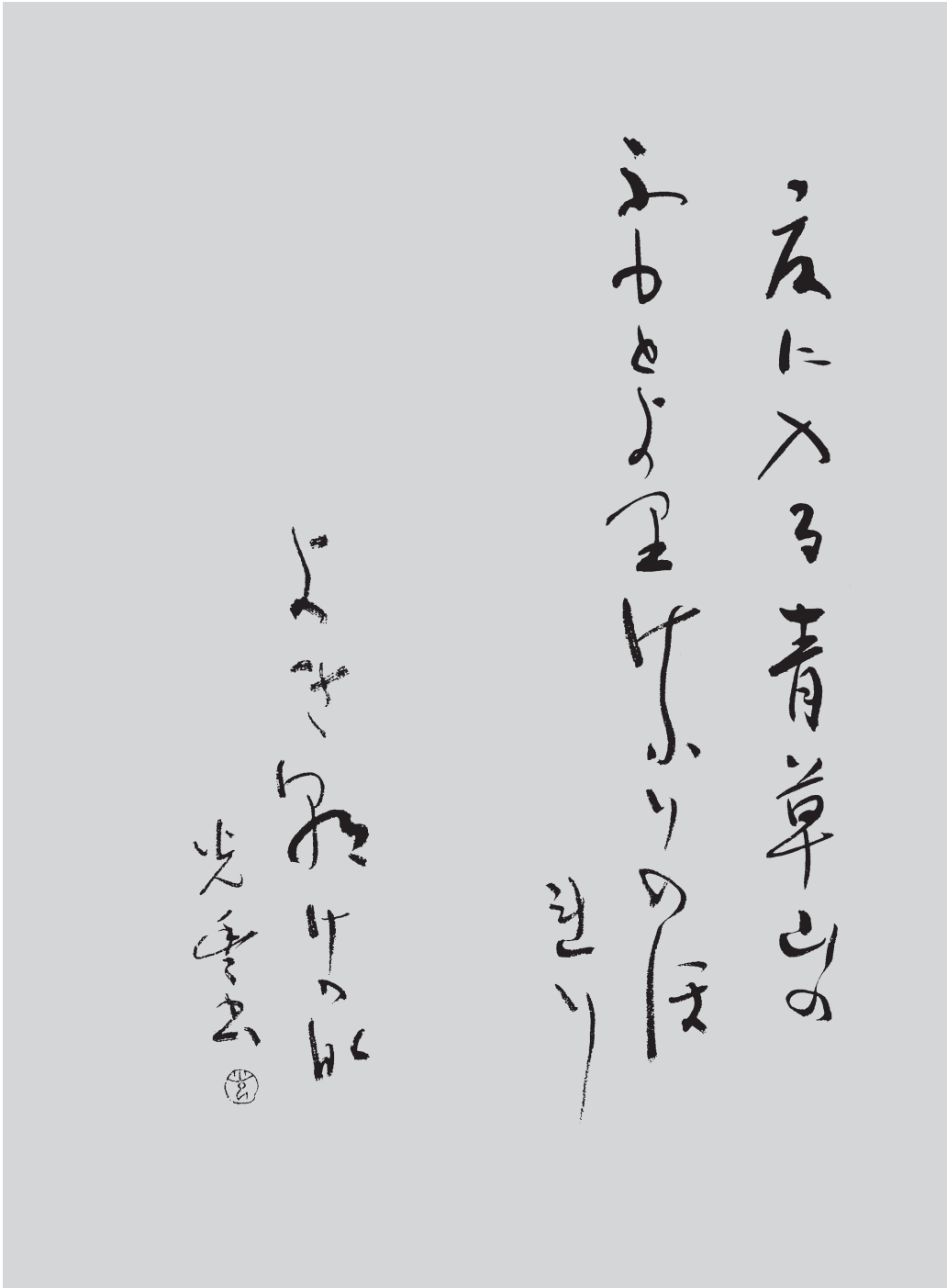
琴 韻 朝 醒 酒 碁 聲 午 破 眠
博 舟 公

訳：琴の音色は朝一日酔をさまし、碁打つひびきは午睡をさます。

添削又は手本希望者は本会規定により、北沢博舟先生（〒190-0001 立川市若葉町4-25-1-18-106）に直接お申し込みください。

絹
村
光
豊
先
生
書

夏なつに入るあそく青草山あそくやまのふもとよりけぶりのぼれりよき朝あさげかなかな（尾上柴舟）
夏なつに入るあそく青草山あそくやまのふもとよ里りけふりのほ連れりよき朝あさげ可か那な



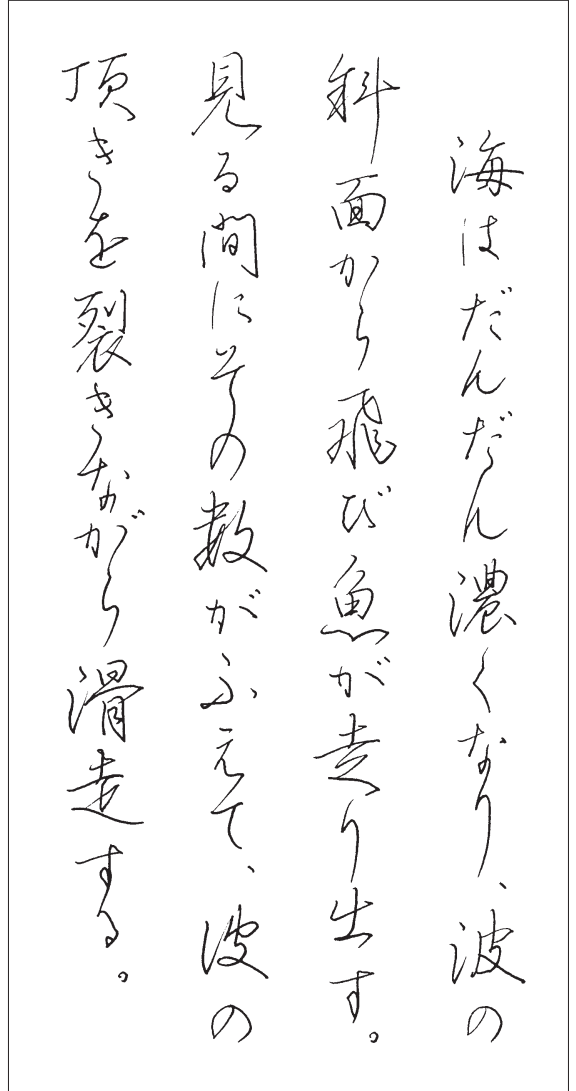
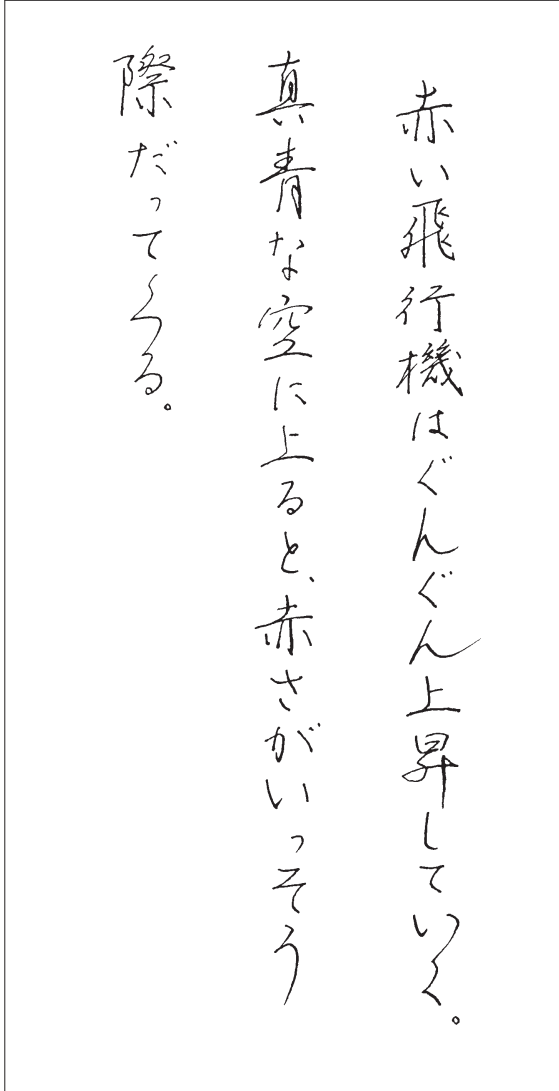
添削又は手本希望者は本会規定により、絹村光豊先生（〒144-0045 大田区南六郷2-35-2-906号）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

海はだんだん濃くなり、波の斜面から飛び魚が走り出す。見る間にその数がふえて、波の頂きを裂きながらかつて滑走する。

〔想う人〕小川国夫

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 〒二〇七〇一三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 〒三七一〇二六

前橋市城東町一ノ二九ノ五

課題2 (初段階以下)

赤い飛行機はぐんぐん上昇していく。真青な空に上ると、赤さがいっそう際だってくる。

〔さざなみ〕瀬戸内晴美